

2008●図書館展示 10 月

2008 年 9 月 29 日～ 10 月 29 日



江戸時代の歌舞伎と音曲コレクション 竹内道敬寄託文庫

企画●国立音楽大学附属図書館広報委員会

場所●図書館ブラウジングルーム

江戸時代の歌舞伎と音曲コレクション 竹内道敬寄託文庫

竹内道敬寄託文庫(以下、竹内道敬文庫)は、近世日本音楽の専門家、竹内道敬氏(元本学教授)から寄託された歌舞伎と近世邦楽に関連する江戸時代のオリジナル資料約 11,000 点からなるコレクションです。本学創立 80 周年記念事業の一環として出版された『貴重書解題目録』に掲載された資料を中心にコレクションの紹介をいたします。



目次

竹内道敬文庫について	2
展示資料紹介	4
竹内道敬文庫の資料の図版が掲載された図書	8

企画・構成 国立音楽大学附属図書館広報委員会

竹内道敬文庫について

1. 竹内道敬文庫の概要

本文庫は、歌舞伎と近世邦楽に関連する江戸時代のオリジナル資料、約 11,000 点からなるコレクションである。昭和 58(1983)年から平成 9(1997)年まで、本学において日本音楽(近世邦楽)関係の講座を担当された竹内道敬教授から約 10,000 点の資料が本学図書館に寄託されたのは昭和 61(1986)年のことであった。のちに寄託から寄贈に切り替えられ、さらに新たな資料追加されて約 11,000 点の資料となって現在に至っている。

当初は寄託という形で預けられたため「竹内道敬寄託文庫」として目録が作成された。目録の一覧は以下のとおりである。

竹内道敬・根岸正海編『竹内道敬寄託文庫目録 その一 宮古路節の部』1989

(請求記号 C48-273, 他)

竹内道敬・根岸正海・鈴木英一編『竹内道敬寄託文庫目録 その二 豊後節の部』1991

(請求記号 C53-834, 他)

竹内道敬・吉野雪子編『竹内道敬寄託文庫目録 その三 江戸長唄の部』1992

(請求記号 C55-277, 他)

竹内道敬編『竹内道敬寄託文庫目録 その四 芝居番付の部』1993

(請求記号 C57-808, 他)

竹内道敬・長谷川由美子編『竹内道敬寄託文庫目録 その五 錦絵図録の部』1994

(請求記号 C58-727, 他)

竹内道敬・根岸正海・東晴美編『竹内道敬寄託文庫目録 その六 義太夫節の部』1995

(請求記号 C61-072, 他)

竹内道敬・吉野雪子・根岸正海編『竹内道敬寄託文庫目録 その七 古曲の部』1996

(請求記号 C61-075, 他)

竹内道敬・根岸正海編『竹内道敬寄託文庫目録 追加篇(一)宮古路節・豊後節の部』1997

(請求記号 C61-829, 他)

竹内道敬・竹内有一編『竹内道敬寄託文庫目録 追加篇(二)摺物などの部』1998

(請求記号 C62-855, 他)

竹内道敬・根岸正海編『竹内道敬寄託文庫目録 追加篇(三)江戸長唄の部』2000

(請求記号 C64-355, 他)

根岸正海・吉野雪子編『竹内道敬寄託文庫目録 追加篇(四)宮古路節・豊後節・長唄・その他の部』2006(請求記号 J107-859, 他)

以上の目録に収められているのは宮古路節、豊後節の正本 2,522 点、長唄正本 2,622 点、義太夫節稽古本など 829 点、一中節正本など 145 点、芝居番付等摺物 4,172 点、錦絵 552 点である。すべてはマイクロフィルムやボジフィルムに撮影され、閲覧、複写が可能である。さらに、平成 17(2005)年度、新たに竹内道敬先生から約 1,700 点の資料が寄贈され、11 冊目の目録が刊行された。同時に、これらの新資料からはデジタル撮影方式を採用することとなった。

さらには目録のデータをウェブ上で公開するための準備が進められており、いずれはすべての資料のデータがコンピュータで検索できるようになり、研究者にとっての利便性は飛躍的に向上するはずである。

2. 竹内道敬文庫の特色

ほぼすべての資料は江戸時代の歌舞伎と音曲に関する資料である。中でも特筆すべきは上方の宮古路節正本の資料群で、薄物正本、段物集ともにこれほどの量を備える機関は他にない。量だけでなく、質においても一級品が数多く所蔵されている。宮古路節の流祖宮古路豊後が、師家である一中節から宮古路国太夫として独立した際の段物集『浄瑠璃十二車』、また宮古路国太夫から宮古路豊後と改名した際の段物集『蝶の舎』をはじめとして、廃絶してしまった宮古路節を探求するに欠かせない貴重な資料が多数ある。また、薄物正本には数少ない上方の絵表紙正本も複数含まれている。

江戸に目を転ずれば常磐津節、富本節、清元節の、いわゆる豊後三流の初版絵表紙正本と芝居番付が、江戸歌舞伎の興行に関する基礎データを提供してくれる。さらに演奏の様子は錦絵の「出語り図」からうかがうことができる。三味線音楽に、さまざまな資料を用いて近づくことによって多角的な考察が可能になるのである。そうした知的遊覧を可能にしてくれる資料が十分に備えられているコレクションといえよう。

さらに、3,000点を越える長唄正本は圧巻である。実は、これらの中にはとくに貴重とはいえない再版の稽古本が多数含まれている。しかし、竹内文庫の長唄正本の特色は、ひとつの曲について複数の版元による複数の正本が非常に多く存在するところにある。それらを俯瞰することで、ひとつの曲が初版からどのような過程をたどって再版を重ねていくことになるのかが詳細にわかるのである。

この他、祭礼番付、祭礼正本を始め、江戸風俗に関する資料もあり、すべての資料を存分に利用することで近世邦楽研究はより豊かなものになり得る。言葉を変えれば、研究者にとって最も利用価値の高いコレクションの一つであるということである。

(出典：国立音楽大学附属図書館編『貴重書解題目録：国立音楽大学附属図書館所蔵』p.56-57(根岸正海))

竹内道敬(たけうち みちたか) 元本学教授
1957年早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了(演劇学)
1992年から1997年まで国立音楽大学教授
専攻 日本近世音楽史

展示資料

パネル

「桜田庄斎文庫」

2005年、竹内道敬氏から寄贈された『桜田庄斎文庫』には、江戸歌舞伎における音曲の興行記録にとってきわめて貴重な資料が多数含まれている。各正本の年代は、享保元(1716)年から宝暦7(1757)年までである。享保期は上方からさまざまな種類の音曲、義太夫節、一中節、宮古路(国太夫)節、上方長唄などが江戸に流入した時代であり、宝暦期はそのさまざまな音曲が淘汰され、宮古路節の系統を引く常磐津節と富本節が主流として確固たる地位を築いた時代である。いわば江戸歌舞伎音曲の発展期ともいえる研究上きわめて興味深いこの時代の正本は、しかしながらあまり多くは残存していない。この『桜田庄斎文庫』が非常に貴重であると言われる所以である。

(出典：国立音楽大学附属図書館編『貴重書解題目録：国立音楽大学附属図書館所蔵』p.59(根岸正海))

義太夫節(恋桜八百屋お七(こいざくらやおやおしち))

半紙本1冊、13行2丁 いがや(元はま町)版 02-1041-08

義太夫節の《恋桜八百屋お七》は寛保2(1742)年1月15日、江戸中村座「娘曾我凱旋八嶋(むすめそががいせんやしま)」2番目に初演。内題に「恋桜八百屋お七」、内題下には「豊竹品太夫」とある。歌舞伎における義太夫節というと義太夫狂言における「竹本」が一般的に知られるが、寛保から宝暦期までは道行とともにせりふとの掛合の音曲としてよく用いられていた。従来、義太夫節は寛保3年以降、江戸歌舞伎において独立した演目に出動していたとされていたが、本書により1年遡ることになった。

(出典：国立音楽大学附属図書館編『貴重書解題目録：国立音楽大学附属図書館所蔵』p.59(根岸正海))

宮古路節(浮名野毛麩(うきなのもうせん))

半紙本上下2冊、11行4丁 いがや(元浜町)版 02-1041-14

宮古路節の《浮名野毛麩》は常磐津節の始祖、常磐津文字太夫が「宮古路文字太夫」と名乗っていたころの初版絵表紙正本である。延享元(1744)年8月1日、江戸中村座「今川忠臣伝(いまがわちゅうしんでん)」2番目に初演。いわゆる「お千代半兵衛」ものだが、テキストは文字太夫オリジナルのものである。表紙に名を連ねている「品太夫事小文字太夫」はのちに富本節を創始する宮古路小文字太夫のちの富本豊前掾である。

(出典：国立音楽大学附属図書館編『貴重書解題目録：国立音楽大学附属図書館所蔵』p.59(根岸正海))

常磐津節(家名所妹背笠紐(いえめいしよいもせのかさひも))

半紙本上下2冊、8行4丁 するがや文右衛門・いがや勘右衛門(元はま丁)版 02-1041-19

宮古路豊後の門弟として江戸に根付いた宮古路文字太夫は延享4(1747)年、常磐津文字太夫と改姓して常磐津節を創始する。《家名所妹背笠紐》は宝暦5(1755)年4月11日、江戸中村座「若緑錦曾我(わかみどりにしきのそが)」の3番目に初演されたお夏清十郎道行の初版絵表紙正本である。版元として名を連ねている「するがや文右衛門」は初代常磐津文字太夫の別名であると言われる。

(出典：国立音楽大学附属図書館編『貴重書解題目録：国立音楽大学附属図書館所蔵』p.59(根岸正海))

半太夫節(和助六(やわらぎすけろく))

半紙本 1冊、8行 2.5丁 中嶋や(さかい丁)02-1041-01

半太夫節の《和助六》は享保元(1716)年正月江戸中村座「式例和曾我(しきれいやわらぎそが)」で初演された。正本の中央に「式例和曾我(しきれいやわらぎそが)」、右に「市川団十郎出は」、左には「江戸半太夫、同 吉太夫 三味線」とある(「三味線」の下は破れで判読不能)。二代目市川団十郎扮する助六が登場する場面(「出端(では)」という)に使われた浄瑠璃であった。これは河東節「助六」の原型となった作品であるが、現在半太夫節の伝承は途絶えている。

(出典：国立音楽大学附属図書館編『貴重書解題目録：国立音楽大学附属図書館所蔵』 p.61(吉野雪子))

河東節(助六所縁江戸桜(すけろくゆかりのえどざくら))

半紙本 2冊、8行 4丁 和泉屋権四郎(たちばな町二丁目)02-1041-07

河東節の「助六」は、本名題を「助六所縁江戸桜」という。現在でも市川団十郎家が「歌舞伎十八番の内」と銘打って上演する時には、この河東節が演奏される。初演は宝暦 11(1761)年 3月江戸市村座「江戸紫根元曾我(えどむらさきこんげんそが)」の第二番目、やはり助六が登場する出端の浄瑠璃として使われた。作者は金井三笑、桜田治助。浄瑠璃は四代目十寸見(ますみ)河東(正本には「江戸太夫河東」とある)。市村亀蔵(のちの九代市村羽左衛門)の助六、二代目瀬川菊之丞の揚巻、二代目沢村宗十郎の意休ほかの出演であった。この絵表紙正本は芝居の上演時に出版されたもので、紫の鉢巻、黒の小袖を身につけた江戸の男伊達(おとこだて)花川戸の助六実は曾我五郎が、傘を手に江戸吉原へ颯爽と登場するその姿が描かれている。

(出典：国立音楽大学附属図書館編『貴重書解題目録：国立音楽大学附属図書館所蔵』 p.61(吉野雪子))

長唄(傾城無間の鐘(けいせいむけんのかね))

半紙本 2冊、6/7行 2丁 いがや(もとはま丁)07-2387

長唄《傾城無間の鐘》は享保 16(1731)年正月江戸中村座「傾城福引名護屋(けいせいふくびきなごや)」で初演され、「めりやす」の囃矢といわれる曲である。初代瀬川菊之丞扮する傾城葛城(かつらぎ)が夫の名古屋山三のための三百両の金を調達できず、手水鉢(ちょうずばち)を無間(むけん)の鐘になぞらえて打つ場面で、上方下りの坂田兵四郎が唄った。なおこの正本は初演時のものではなく、宝暦元(1751)年 9月江戸中村座で、初代瀬川菊之丞三回忌追善として、菊之丞の実弟の瀬川菊次郎が再演した時のものである。

(出典：国立音楽大学附属図書館編『貴重書解題目録：国立音楽大学附属図書館所蔵』 p.61(吉野雪子))

錦絵コレクション (天明 8(1788)年～明治 40(1907)年)

江戸時代に大量に生み出された錦絵は文化の担い手として歌舞伎、遊里、庶民の生活を生き生きと描いていて、世界中の美術史を見渡してみても類のない一群である。一般に錦絵の約一割は音楽に関連しているが、このコレクションでは総数 557 点(竹内文庫以外に 5 点の図書館所蔵分を含む)のうち約半数の 272 点が音楽に繋がっている。楽器や演奏場面を描いた絵の他に、音曲の伴奏によって踊られる舞踊の場面や当時流行した音曲の歌詞や替え歌が記されている絵などなど。枚数では他機関に及ばないが、当コレクションは音楽に係わる錦絵として、音楽図像学研究にとって必須の基礎資料群である。そのなかでも特筆すべきは文化 9(1812)年から明治 19(1886)年に渡る 34 点の「出語り図」(歌舞伎の舞台を描いた錦絵の中で、役者と演奏者が描かれている舞踊の場面を言う)である。

(出典：国立音楽大学附属図書館編『貴重書解題目録：国立音楽大学附属図書館所蔵』p.63(長谷川由美子))

〈其常磐津仇兼言(そのときわすあだなかねごと)〉大判錦絵横 1 枚 万喜 80-0906

この図は文化 9(1812)年 1 月中村座上演の「台頭霞彩幕(だいがしらかすみのいるまく)」より 2 番目浄瑠璃《其常磐津仇兼言》。「あかねや半七」を上方の役者である三世中村歌右衛門が、「みのや三かつ」を五世岩井半四郎が演じている。半四郎は三かつとその実母の二役、歌右衛門も半七とその実父の二役を早替りで演じ、3 月の節句まで続く大当たりの芝居となった。画面左に描かれた短冊には「文化九年春狂言 古今の大当たり大当たり」とあり、その人気伺える。太夫は名人として知られた三代目兼太夫であるが、名題に太夫の名が織り込まれたことについて一悶着あったことが『歌舞伎年表』に記されている。

(出典：国立音楽大学附属図書館編『貴重書解題目録：国立音楽大学附属図書館所蔵』p.63(長谷川由美子))

〈願系縁苧環(えがひのいとゑんのをだまき)〉大判錦絵 3 枚続 80-0943

上演 文化 10 年(1813 年)7 月 中村座

役者 二代目沢村田之助(おちよ) 三代目坂東三津五郎(半兵衛)

ポスター

特別展 江戸の声 - 黒木文庫でみる音楽と演劇の世界

2006 年 3 月 27 日-5 月 7 日 東京大学駒場博物館

「鳩鳥(におどり)」河東節 享保 4(1719)年の画像掲載

図書

国立音楽大学附属図書館編『貴重書解題目録：国立音楽大学附属図書館所蔵』
国立音楽大学, 2007 請求記号 J110-621, 他

小澤由佳(著)『三代目杵屋正治郎研究：劇界近代化の中での軌跡』
(日本大学大学院芸術学研究科), (2007) 請求記号 J113-043

竹内有一編『詞章本の世界：近世のうた本・浄瑠璃本の出版事情』
京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター, 2008 請求記号 J113-471

黒木文庫特別展実行委員会著；ロバート・キャンベル編
『江戸の声：黒木文庫でみる音楽と演劇の世界』
東京大学大学院総合文化研究科教養学部美術博物館, 2006 請求記号 J107-649

日本芸術文化振興会国立劇場調査養成部企画・編集；小島美子監修
『日本の伝統芸能講座音楽』
京都：淡交社, 2008 請求記号 J113-304

藤澤茜著

『歌川派の浮世絵と江戸出版界：役者絵を中心に 改訂版』
勉誠出版, 2001 請求記号 J93-662

国立劇場事業部宣伝課編『佐倉義民伝：東山桜荘子：通し狂言』
国立劇場歌舞伎公演；第 209 回
日本芸術文化振興会, 1998 請求記号 C63-074

『曾我梅菊念力弦：通し狂言』
国立劇場歌舞伎公演；第 248 回
日本芸術文化振興会, 2006 請求記号 J106-917, 他

『浄瑠璃鑑賞会. 第 9 回, 梅川・忠兵衛物をめぐって』
国立劇場邦楽公演；第 99 回
日本芸術文化振興会, 1997 請求記号 C65-171

『邦楽鑑賞会：琵琶の会・新内の会』
国立劇場邦楽公演；第 89 回
日本芸術文化振興会, 1995 請求記号 C65-167

『名作歌舞伎舞踊』
国立劇場舞踊公演；第 78 回
日本芸術文化振興会, 1996 請求記号 C65-166

竹内道敬文庫の資料の図版が掲載された図書

国立劇場調査養成部調査資料課編『花翫曆色所八景』

国立劇場上演資料集；478

日本芸術文化振興会, 2005 請求記号 J105-047

国立劇場事業部宣伝課編『妹背山婦女庭訓：通し狂言：第2部』

国立劇場歌舞伎公演；第201回

日本芸術文化振興会, 1996 請求記号 C61-319

国立劇場事業部宣伝課編集『むすめごのみ帯取池・道行雪故郷・歌舞伎十八番の内勸進帳』

国立劇場歌舞伎公演；第207回

日本芸術文化振興会, 1998 請求記号 C62-336

『江戸三味線音楽の歴史；第3回. 都市を楽しむ人々：寛政改革～文化・文政期』

日本芸術文化振興会, 2003 請求記号 J98-937

『江戸三味線音楽の歴史；第5回. 変わりゆく社会：天保の改革～幕末』

日本芸術文化振興会, 2005 請求記号 J106-821

『浄瑠璃鑑賞会. 第8回, 一中節・宮園節・河東節の魅力』

国立劇場邦楽公演；第93回

日本芸術文化振興会, 1996 請求記号 C65-169

国立劇場事業部宣伝課編

『浄瑠璃鑑賞会. 第11回, 祭礼物』

国立劇場邦楽公演；第107回

日本芸術文化振興会, 1999 請求記号 C64-194

『邦楽鑑賞会. 自然と音楽 II: 四季をうたう秋・冬』

国立劇場邦楽公演；第91回

日本芸術文化振興会, 1996 請求記号 C65-168

『邦楽鑑賞会：三曲・器楽性の高まり, 長唄・芝居をはなれて』

国立劇場邦楽公演；第114回

日本芸術文化振興会, 2001 請求記号 C65-230

展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開しています。)

<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>

2008/10/10 編集 国立音楽大学附属図書館広報委員会：三宅巖・二塚恵里